

# 巻頭言

日本 ALS 協会北海道支部支部長 山田洋平

皆様、こんにちは。日本 ALS 協会北海道支部支部長の山田洋平でございます。

1月の最後の週に、北海道にて、記録的な大雪が降りました。私の住む札幌市では、1月の記録として、初めて積雪で1メートルを超え、なんと、この半分近くは1日の降雪となりました。新千歳空港に閉じ込められて、床で一夜を過ごさざるを得なかった人が、数千人いたと聞いております。

私を含めまして ALS 当事者は、このような自然災害に対しての対策を講じなければなりません。特に、人工呼吸器に息をするのを手伝ってもらっている当事者は、停電が起きたときの対策も、考える必要があります。

北海道においての冬の災害で、雪が避難の障害となるのです。大雪になれば、車での移動は、制限が出ます。病院に避難するための移動や、救急車ですら、スムーズに動かないのです。冬の災害は、寒さとも向き合う必要があります。停電になると、オール電化のお宅はもちろんのことですが、ご自宅の石油ストーブも電気を必要としている機器も役に立たなくなります。

私は、毎日、外出をしています。毎朝、スーツに着替えて、普段通りに生活をして仕事をしています。

私は、スタッフたちと日々話を繰り返して、災害が起きたときに、何をすべきかと、何を持っていくべきかと、どこに連絡すべきかを相談しています。外出を毎日行うことで課題が見つかり、避難訓練になるのです。

私は、特別ではありません。かつて私は、全身が痛くて、5分も車椅子に乗っていることもできず、半年間も引きこもっていた時期もありました。

私は、全ての ALS の当事者さんに、いつでも災害時に家から出られるように、まずは、毎日の着替えと、車椅子への移乗を推奨しているのです。

寒い日が続きます。皆様、どうぞお身体をご自愛いただき、お過ごしください。

